

“小さな大人”の 時期だから身につくこと

大人の真似をしながら、少しずつ社会性を身につけていく5歳。親が人としての姿を「見せる」意識を持って接することで、お子さんは社会で必要なルールを学んでいきます。

お子さんが「ごっこ遊び」をすると、お母さんにそっくりな話し方をすることがありますよね？着替え、歯みがき、トイレなど、自分のことは何でも自分でできるようになる5歳の時期は、人を真似ることで生活習慣を身につけていきます。

子どもが身近な大人の特徴を自分の中に取り入れ



日本ハグ協会会長
高木さと子さん

誰に也能て簡単なコミュニケーション「ハグ」とコミュニケーションを合わせた「ハグニケーション」を提唱。企業、団体、家庭に向けてさまざまな講演活動やイベントをに取り組んでいる。自身も15歳と13歳の男の子のママ。



ていくことを「モデリング」といいますが、社会や集団での「ルールの意味」を理解するようになるこの時期にこそ、基本的なしつけやルールを守ることを身につけておきたいものです。そして、これらを身につけていく過程は、小学校で必要な「聴く力」や「伝える力」にもつながっていきます。

人の背中のまん中あたりには、触れるだけで安心してリラックスできる「副交感神経」があります。感受性も豊かになり、人の気持ちを感じることもできるようになるこの時期。お子さまをそっと抱きしめ、リラックスできる時間をたくさんとってあげてください。また、一緒に絵本を読んで、感じたことをお子さんに伝えてあげるなど、気持ちを寄りそわせる時間も大切にしたいものです。その経験の中で5歳の子どもたちは少しずつ社会性を身につけ始めます。